

Queensland Museum 訪問

山脇学園中学校 教頭補佐 松本 健一郎

1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024年9月4日、視察先である Queensland Museum を訪問した。本施設はブリスベン市中心地とブリスベン川を挟んで隣接するサウスバンク地区に立地する。同地区は2032年夏季オリンピックがブリスベンで開催されることもあり、積極的に再開発が進められている。サウスバンクパークランズ（広大な公園）、パフォーミングアーツセンター、州立図書館が本施設より徒歩圏内にあり、サウスブリスベン駅やフェリー乗り場も目の前にあるのでアクセス条件は大変良好である。



ミュージアム入口



サウスバンクパークランズ

2 施設概要

本施設にはクイーンズランド州の自然、歴史文化に関する収蔵品を展示しており、2024年にフロア改装が行われて恐竜に関する展示が充実している。

オーストラリアの公共施設ではどこでも先住民への敬意を示すために彼らの旗を掲揚し、彼らへの感謝を述べる文章などが掲示されている。日本では一般的にオーストラリアの先住民としてアボリジニが知られているが、トレス海峡諸島民という海洋民族も先住民として認定されており、私たちが訪れた期間にはトレス海峡諸島民に関する特別展示が公開されていた。

また、オーストラリアでは ANZAC（オーストラリアとニュージーランドの合同軍）の犠牲に対する敬意も払われており、ANZAC の名を冠した施設、地域、祝日などがある。本施設内でも ANZAC LEGACY GALLERY という第一次世界大戦における ANZAC の活動や戦時中の社会に関して展示が行われている。

3 展示内容

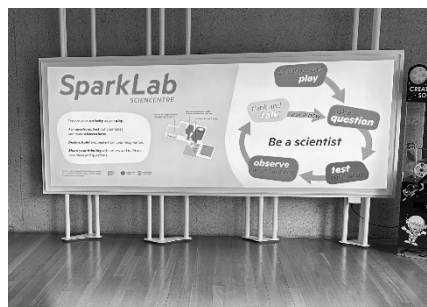
(1) <地上階>ダイナソーガーデン

等身大の恐竜像が設置されており、周辺はベンチなどもあり休憩できる。

(2) <1階>SparkLab・ANZAC LEGACY GALLERY

SparkLab は科学、技術、工学、数学に関するスペースである。本施設は基本的に無料であるが SparkLab と特別展は有料となる。

ホームページにも記載があるように展示内容としては小学生～中学生向けとなっており、体験を通じて科学への関心を高められるようになっている。



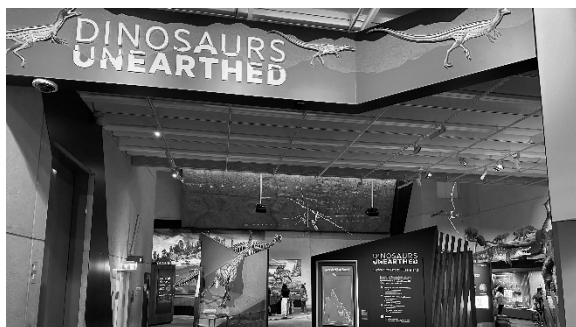
SparkLab 案内板

(3) <中2階・2階>中2階：鉱物展示・2階：恐竜展、海洋諸島民に関する展示

中2階は鉱業大国オーストラリアらしく様々な鉱物が展示されている。海洋生物の展示としては等身大のザトウクジラが博物館脇の通路内に展示され、ザトウクジラの声が常時流されている。

本施設の特筆すべき展示の一つが恐竜ゾーンである。クイーンズランド州で発掘された様々な恐竜の化石、復元模型、全身骨格などを見ることができる。クイーンズランド州は中生代の地層が広く露出しており、研究者ではない一般人が化石を発見することも多い。クイーンズランド州の化石の象徴とされるムッタブラサウルスも牧羊業を営む男性によって発見されたとのことである。その他、メガファウナと呼ばれる絶滅した大型動物類の展示と説明も見られる。

海洋諸島民に関する展示は2025年7月までとなっている。彼らの文化や苦難の歴史が多くのスペースを割いて展示されている。



恐竜ゾーン入口



古代カンガルーは直立すると3m

(4) <3階>改装中・2024年10月末からは古代エジプト展の予定

(5) <4階>Wild State ・ Discovery Centre

Wild State ではクイーンズランド州の野生動物についての展示が見られる。乾燥地、森林、熱帯雨林、沿岸部、海洋という5つのゾーンに生息する生物についての説明と展示があり、これらの環境と生物を保全する必要性を訴えている。

Discovery Centre は昆虫、爬虫類、鳥類、哺乳類などクイーンズランド州に生息する動植物、文化財を間近に見ることができる。標本だけではなく生きた動

物、昆虫の展示も行われており、専門スタッフの説明を受けられる。

4 その他の特徴

本施設のホームページからバーチャルツアーで館内を見ることが可能となっている。また、クイーンズランド州全体の博物館のホームページからは収蔵品の画像や情報を検索できる。

施設のキャパシティからすると日本から教育旅行で訪問する場合は60～80名程度までが快適に見学できる適当な人数と考えられる。サウスバンク地区周辺には本施設以外にも公共施設があるので、多くの人数がいる場合には分散して見学するとよい。

5 おわりに

オーストラリアでは昨年10月に先住民の声を政策に反映しやすくする憲法改正が提案され、国民投票が行われたが全州で反対多数となり否決された。この結果に私は驚き、なかなか問題の解決は難しいものと考えさせられた。

実際にオーストラリアの各施設や街を訪れて感じることは、先住民への敬意を表することを国を挙げて行っているということである。本施設の展示でも過去への反省や先住民との和解などのメッセージが込められていることが十分に伝わってきた。

今回の視察で訪れたどの学校や施設でも融和的で多様性に配慮する教育や活動が見られた。先年の国民投票では先住民に関する意識の差がオーストラリア国内で浮き彫りになったが、受容や融和に向けた地道な努力が必ず実を結ぶと感じられた。

今日の日本でも「インクルーシブ」「ダイバーシティ」といった言葉が日常的に聞かれるようになったが、オーストラリアほどには喫緊の課題として捉えられていない節がある。無論、「お国事情」はそれぞれあるのだが、オーストラリアの現状を我が国の一つの未来として捉えることもできよう。彼らの取り組みを我々教員がどのように日本の教育現場に取り込んでいくか、よく検討していきたい。

最後に、今回の視察にあたり企画準備してくださった私学財団、我々を迎えてくれた現地の皆様、現地での動きをサポートしてくださったガイド、通訳の皆様、そして視察団を盛り上げ、互いにサポートし合った武藤団長をはじめとした視察団員の皆様に感謝申し上げます、筆を置くこととする。

(参考)

クイーンズランド博物館 <https://www.museum.qld.gov.au/>

クイーンズランド博物館クリルパ <https://www.museum.qld.gov.au/kurilpa>

※クリルパが今回見学した施設である。